

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. **33**
2020.12



JU 城西大学
Jbc 城西短期大学
坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
<https://www.josai.ac.jp>



ゼミ登場

持続的成長社会に向けた環境経営の研究(志田ゼミ)
〓人が人を支える、これからの「共助」学ぶ(柳澤ゼミ)

今年度の高麗祭は中止となりました



目次

- 02 令和2年度 秋季卒業式
| 現代政策学部生による記事が「広報さかど」誌に掲載／城西スポーツの新しい“拠点”完成を祝う／高麗川で散策&ごみ拾い 環境を“感じ、考える、時間”に／薬物乱用防止研修会／中国語スピーチコンテスト
- 03 [特集]
城西のスポーツ 快進撃
[箱根駅伝予選会]
総合3位で2年ぶり16回目の本戦出場決める [日本インカレ]
水久保100% 200%ダブル優勝
[社の都駅伝]
7位で2年連続の来季シード権
[首都大学野球秋季]
2部優勝果たす 15季ぶり14回目
[全国大学選抜女子ソフトボール]
初のベスト4 全国大会での最高成績
硬式野球部OB渡辺直人選手(楽天)に聞く
- 06 [シリーズ]ゼミ登場
持続的成長社会に向けた環境経営の研究 (志田ゼミ)
“人が人を支える、これからの「共助」学ぶ (柳澤ゼミ)
- 07 [シリーズ]フォーカス
日高市農業会議所会長 堀口豊さん
城西川越高校 硬式野球部
- 08 [シリーズ]先輩訪問
T-アスリート鍼灸院院長 高橋裕太さん
- 09 [シリーズ]図書館だより
- 10 [シリーズ]美術館通信
- 11 [エリア紹介]
鶴ヶ島市 応援ありがとう！
「つるゴン」が全国3位に
毛呂山町 日本最古の生産ゆず「桂木ゆず」
東武線沿線情報 「比企能員の伝説の武器をさがせ！」

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
コロナ禍のこの秋。各運動部の活躍は目覚ましいものがありました。短距離陣が快挙を成し上げた陸上競技部に始まり、箱根予選会を突破した男子駅伝部、シード権を守った女子駅伝部、2部優勝の硬式野球部、全国大会ベスト4の女子ソフトボール部とその連覇が続きました。

- ① 日本人トップ集団を引っ張る菊地(右)と砂岡=第97回箱根駅伝予選会
- ② 集団走の宮下(ゼッケン203)、山本樹(同209)、山本唯翔(同210)=第97回箱根駅伝予選会
- ③ 100%決勝 激闘を制した水久保(左)と3位ゴールの鈴木(右からの2人目)=日本インカレ
- ④ ゴール直前、躍動する2人の城西スプリンター(左からの2人目が水久保、右端が鈴木)=日本インカレ
- ⑤ 最長区間の5区で大阪学院大学の選手をかかわす福嶋=第38回社の都駅伝
- ⑥ 1区-藤村(左)から2区-柳川に柳りー=第38回社の都駅伝

- ⑦ 力投する唐沢
- ⑧ 本塁生還する山本

令和2年度 秋季卒業式 108人が巣立ち 2020.9.19

「一期一会」の心で 友人・知人の輪を広げて

変化の時代、大きなチャンスへ「4つのC」で(上原理事長)

今年度の秋季卒業式が9月19日、清光ホールで執り行われました。この日、城西を巣立ったのは留学生21人を含む108人でした。

学位記授与式では、藤野陽三学長から大学院卒業生のほか、学部、学科の代表者に学位記が手渡されました=写真。

藤野学長は告辞で「社会に出れば、どの組織にも課題は山積しています。どんな小さなことでもよいのです。城西大学で培った、課題を見つけ、解決するという経験、知恵を生かしてください。新型コロナウイルス感染拡大の状況

で我々の価値判断も少しずつ変わってきているように感じます。変化する中では色々新しいことが生まれます。それをうまく感じ取って行動に移すことが大事だと思います。それを担うのが、あなた方、皆さんです」と激励。好きな言葉として「一期一会」を紹介したうえで「(この言葉)心に思い描いていただき、ぜひ、友人・知人の輪を広げてください」と結びました。

上原理事長は祝辞で「新型コロナウイルス感染症が拡大したことによって世の中のものの見方、考え方が大きく変わりつつあります」と述



べて、「4つのC」の言葉を贈りました。「Change」「Chance」「Challenge」「Charge」で、「変化の時代には大きなチャンスが横たわっています。自分の発想を変え、挑戦しなくてはいけない。やると決めたら猛烈果敢にやってみろということです。この『4つのC』を心掛けて、これからも進んでいただきたい」と呼びかけました。



答辞を読む服部真奈さん

来賓祝辞に続き、卒業生を代表して服部真奈さん(薬学部医療栄養学科)が答辞。「大変充実した学生生活を送る中で、友人たちとの実り豊かな出会いは私たちの財産となりました。共に喜びを分かち合い、苦難を乗り越えられたことは一生の宝物です」と感謝の言葉を述べました。

現代政策学部生による記事が「広報さかど」誌に掲載

学生13人が4グループに分かれ 「コロナに向き合う」医師や社会福祉法人など取材

城西大学と坂戸市の連携事業の一環として現代政策学部の学生が医師や社会福祉法人理事長、ボランティアの方々から取材した記事が特集「コロナに向き合う」として「広報さかど」11月号で紹介されました。

今回の特集は、日々さまざまな立場でコロナに向き合い尽力している方々を現代政策学部の学生たちが取材し、改

めて新型コロナウイルスへの理解と注意を促すことを目的に企画されました。

特集は学生たちが取材とインタビュー記事を作成、市が編集を担当。13人の学生が4グループに分かれて、診療所の栄クリニック、社会福祉法人シャローム埼玉、城山学園の消毒ボランティア、公益社団法人西入間青年会議所の4カ所を訪ねて取材しました。



「広報さかど」11月号の特集誌面より

城西スポーツの新しい“拠点”完成を祝う

—JOSAI SPORTS FIELD竣工式—

大学北側の毛呂山町下川原地区に整備が進められていた「JOSAI SPORTS FIELD」の竣工式が9月19日に執り行われました。竣工式には、上原理事長と藤野陽三学長をはじめ、女子ソフトボール部部長、サッカー部や男女駅伝部の監督らのほか、井上健次・毛呂山町長、設計管理・施工の工事関係者ら約30人が参加して、新しいスポーツの“拠点”の完成を祝いました。

新グラウンドは総面積約7万1500平方メートル。いずれも夜間照明付きのサッカーコート2面、ソフトボールコート1面をはじめ、1周960メートルのランニングコースのほか、トレーニングルームや更衣室のある管理棟など附属建物4棟が整備されました。2018年4月から工事が始まり、2年6か月をかけて完成しました。部員数にすると、約300人の選手が使用します。

祝詞奏上、玉串奉奠などの神事後、上原



理事長が施主として挨拶。「クラブ活動を楽しめるとともに授業もここでできるということで、このフィールドは大学での学生生活を充実させることに一段と貢献してくれるものと思っています。このフィールドがこれからも続いて、多くの学生たちが思い出の場として巣立ってくれたらと思います」と述べました=写真。

参加者は竣工式の後、施設見学に移り、ソフトボール場の監督室を見た後、ランニングコースやサッカー場の人工芝の感触を確かめていました=写真。

高麗川で散策&ごみ拾い 環境を“感じ、考える、時間”に

医療栄養学科1年生の必修科目 [医療栄養学概論演習]で

2020.10.30



参加した学生たちが集まってポーズ

医療栄養学科1年生の必修科目・医療栄養学概論演習で10月30日、高麗川河川敷を散策しながら、ごみ拾いが行われました。授業ではこれまでに2回、オンラインで環境について学び、川の水について発表もしました。この日は高麗川に出かけ、ゴミ拾いだけでなく、動物や植物も見て、環境について自分で感じ、考える時間となりました。

この時間のもう一つの目的は、大学生活のなかで大切な存在になる友だちづくりのチャンスにしてもらうこと。例年なら入学後間もない時期に実施する授業ですが、今年は11月も間近になっての開催で、しかも半数ずつ午前と午後に分かれて実施しました。

高麗川の河原は、すっかり秋の装い。澄んだ風が流れ、心地よい日差しがいっぱいでした。最初は見つからなかったごみも、目が慣れてくると次第に見つかりました。増水時に流れ着いたもの、散策のときに落ちたらしいもの、投げ捨てられたのかと思うものなど色々でした。

薬物乱用防止研修会 —大学スポーツ界での相次ぐ不祥事受け

2020.9.28 / 10.28 / 29

スポーツ振興センターでは9月28日に運動部の学生を対象にオンラインによるスポーツコンプライアンス研修を実施しました。男女駅伝部、硬式野球部、陸上競技部、サッカー部、女子ソフトボール部の1、2学年の学生たちを中心に約200人と多くの関係者が参加しました。佐々木達也センター所長と職員で元埼玉県警第二方面本部副部長の市村知孝氏が、過去の事例などをとに個々の運動部員が取り組むべきことなどを紹介しました。

また、10月28、29日には薬物乱用防止研修会を開催しました=写真。大学スポーツ界で最近相次ぐ薬物不祥事を受けて、改めて注意喚起を行うことが狙いでした。市村氏を講師に具体的な事案や危険性、部員としてなすべきことなどについて聴きました。



薬学部3年の畔地さんが 中国大使館政治部賞

2020.10.18

中国語スピーチコンテスト

第41回埼玉県中国語スピーチコンテストが10月18日、さいたま市の浦和コミュニティセンターで開かれ、薬学部薬科学科3年の畔地未来さんが大学生部門に出場しました。

埼玉県日本中国友好協会の主催。畔地さんは「我沉迷于做中餐」(中国料理を作るのにはまっています)をテーマに、新型コロナウイルスの影響で在宅時間が長くなったことをきっかけに中国料理作りをチャレンジし、料理を通してたくさんの友達との交流が深まったことを話しました。感染防止のため、発表者はマスクにフェイスシールドも着用。畔地さんは堂々とした発表で、中国大使館政治部賞を受賞しました=写真。当日は、語学教育センター講座「中国語集中トレーニング」を履修する1年生2名も応援に駆けつけました。



特集 城西のスポーツ 快進撃

男子駅伝部は箱根予選会3位通過、女子駅伝部は杜の都駅伝で2年連続シード権獲得、陸上競技部は短距離陣がインカレと日本選手権で快挙、硬式野球部は首都大学リーグ2部で優勝、女子ソフトボール部は代替の全国大会で過去最高のベスト4。

新型コロナウイルス感染症は収束の兆しが見えず、大学祭「高麗祭」は中止を余儀なくされました。後期も主だった授業はオンラインが続いています。コロナ禍で上期の大会が中止や延期になった各運動部はこの秋、その鬱憤を晴らすような快進撃を見せました。

第97回箱根駅伝予選会

総合3位で2年ぶり16回目の本戦出場決める

2020
10.17

菊地主将・全体8位、11人が自己記録更新

——強い城西、見せつける

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)予選会は10月17日、東京立川市の陸上自衛隊立川駐屯地で行われ、男子駅伝部は10時間29分37秒で総合3位と躍進、2年ぶり16回目の本戦出場を決めました。

主将の菊地駿弥選手(経営学部4年)が全体8位、砂岡拓磨選手(経営学部3年)が13位、菅原伊織選手(経営学部4年)が18位とチームを引っ張り、1年生5人を含めた出走12人のうち11人がハーフマラソンの自己記録を更新、「強い城西」を見せつけました。来年1月2、3日

3位通過を喜ぶ選手たち
=月刊陸上競技提供



の本戦では過去最高の5位以上を目指して「箱根路」を駆け抜けます。今年は無観客で駐屯地の滑走路(1周約2.6km)を周回するハーフマラソン(21.0975km)の公認コースで行われました。12人が出場し、上位10人の合計タイムで競いました。男子駅伝部は、力のある菊地、菅原、砂岡の3選手が先頭集団についてタイムを稼ぐ一方、他のメンバーは集団走で粘る作戦でレースに臨み、その作戦が見事にはまりました。柳部静二監督は「今年の予選会は、コロナ禍による活動制限のため思うような練習ができなかったことや競技会中止で他大学の動向が見えないなど非常に緊張感のある戦いでした。そのような状況下で結果は3位、予想以上の成績で通過することができました。しかも多くの選手が自己ベストを更新できたことはとても大きな収穫となりました。今後はより一層トレーニングに励み、大会当日は楽しんで攻めのレースをしたいと考えています。ご声援のほどよろしく願います」と話しています。

日本インカレ

水久保 100m 200m ダブル優勝 鈴木も同時表彰台

2020
9~10

鈴木は日本選手権200mで3位表彰台 ——本学2人目

9月から10月にかけて陸上競技部主将の水久保漱至選手(経営学部4年)と鈴木涼太選手(経営学部3年)のショートスプリント陣による快挙が続きました。

9月11~13日、新潟市で開かれた第89回日本学生対校選手権大会(日本インカレ)では、水久保が、本学で初となる100m、200mでダブル



インカレ200m表彰後の水久保(中央)と鈴木(左)=月刊陸上競技提供

優勝。鈴木は100m3位、200m2位でいずれも表彰台に上がりました。水久保の100m10秒14(追い風1.8m/s)は、自身が8月の大会で出した10秒26

をさらに更新する城西大学新記録。日本学生歴代9位の好記録でした。鈴木も10秒22でそれまでの自己記録(10秒33)を大幅に更新しました。200mは20秒75(向かい風0.6m/s)の水久保に続いて鈴木が20秒83でゴール。ワンツーフィニッシュを達成しました。

また、同じスタジアムで10月1~3日に開かれた第104回日本陸上競技選手権大会では、鈴木が200mで第一人者に続いて3位(20秒89、向かい風0.5m/s)に食い込み、2015年の第99回大会の400m

で2位だった佐藤拳太郎選手(当時・経営学部3年、現・富士通)以来、本学で2人目の表彰台に上りました。水久保は100mを回避、200m一本に絞って頂点を目指しましたが、練習中に足を痛め、無念の棄権となりました。

「五輪標準記録の突破を目指す」(水久保)

2人も来年の東京五輪出場を目指しています。水久保は「五輪標準記録の10秒05に近づければもっと良かったが、標準記録突破は来年目指す。200mの借りは必ず返します」と語り、鈴木も「今年はケガをしない身体作りに力を入れてきた。日本選手権では初めて表彰台に上ることもでき、充実した1年となった。何がなんでも東京五輪に出場したい」と抱負を語っています。

渡辺直人選手(楽天)に聞く

硬式野球部OB

今季限りで
現役引退

「雑草軍団の根性みせ、勝って自信を」

硬式野球部OBで東北楽天ゴールデンイーグルスや埼玉西武ライオンズなどで活躍した渡辺直人内野手(40)が今季限りで引退する。渡辺選手は茨城・牛久高から城西大学入学。三菱ふそう川崎を経て、2007年に楽天入り。その後、横浜ベイスターズ(現DeNA)から西武に移籍したが、2018年に古巣に復帰した。粘り強い打撃や好守備でチームに貢献。今季から1軍打撃コーチも兼任していた。通算成績は1134試合で853安打、打撃2割5分9厘、7本塁打、229打点。1980年度生まれの「松坂世代」で残るただ一人の現役野手だった——。渡辺選手にリモートで話を伺いました。



東北楽天ゴールデンイーグルス
渡辺直人内野手
(楽天野球団提供)

粘り強い打撃、好守備で活躍

第38回杜の都駅伝

7位で2年連続の来季シード権 年末には富士山女子駅伝に出場

2020
10.25

第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)は10月25日、宮城県仙台市で6区間38.1kmのコースで開かれました。26年連続27回目の出場的女子駅伝部は7位と昨年より順位を1つ落としたものの、2年連続で来年のシード権(8位以内)を「死守」しました。併せて12月30日開催の全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)への出場を決めました。

今大会は2年生3人と1年生3人で臨みました。昨シーズンの4年生が抜けた穴を1年生が埋めました。各校の準エース級が集まった1区。藤村華純選手(経営学部2年)は粘って10位で1年生の柳川愛絵選手(経営学部)に襷をつなぎました。柳川選手は順位を1つ落としましたが、区間10

位でカバー。3区の伊藤柚葉選手(経営学部1年)は区間7位の力走で順位を4つ上げ、一気にシード圏内に。村上礼乃選手(経営学部1年)も健闘して順位を守りました。エースの福岡摩耶選手(経営学部2年)は本来の走りではありませんでしたが、順位を上げ、6位でアンカーの渡辺光美選手(経営学部2年)へ。渡辺選手は区間6位の力走でしたが、1人にかわされ7位でゴールしました。

赤羽周平監督は「2年連続のシード権獲得ですが、悔しい7位です。フレッシュな布陣で不安要素もありましたが、6名の選手たちは、ほぼ現状の力を出し切ってくれたと感じています。全選手がこの大会に向けてしっかりピークを作っていた証ですし、来年が楽しみになる内容だったと思います。学生たちの成長は早く、一つの大会でも、多くのことを吸収し、大きく成長してくれます。今大会の経験は、必ず次につながるとしています」と語っています。



レース後に笑顔でポーズ
(前列右側からメンバー)

首都大学野球秋季リーグ

2部優勝果たす 15季ぶり14回目 首位打者獲得の捧主将が最優秀選手賞に輝く

2020
10

首都大学野球の秋季リーグ2部は10月からW・R各グループで1試合合総当たり勝率制と最終順位決定戦1試合の変則方式で行われました。硬式野球部はWリーグを4戦全勝で突破。最終順位決定戦で明星大学に勝利し、全勝で2部優勝を果たしました。2部優勝は15季ぶり14回目。首位打者となった捧颯人主将(経営学部4年)が最優秀選手賞に輝きました。今季は変則方式となったため、1部との入れ替え戦は

行われませんでした。来シーズンの1部復帰に期待を抱かせる結果となりました。

5試合とも僅差での勝利で、村上文敏監督が理想とする投手を中心に守り勝つ「負けにくいチーム」となったことが優勝につながりました。捧主将は15打数9安打で打率6割。投手成績では宮澤悠太選手(経営学部3年)が防御率1.69で2位、北川裕登選手(経営学部4年)が同1.80で3位。ベストナインには、捧主将(外野手)と鈴木泰秀選手(経営学部3年、一塁手)が選ばれました。



優勝後の集合写真

全国大学選抜女子ソフトボール選手権

初のベスト4 全国大会での最高成績

2020
11

全国大学選抜女子ソフトボール選手権大会は11月10~12日、愛知県安城市内で開かれ、女子ソフトボール部は初戦の立命館大学戦に3-1と勝利。準々決勝戦でIPU・環太平洋大学戦を4-1と退けてベ

スト4に進出、3位に輝きました。

コロナ禍で中止となった全日本大学選手権大会(インカレ)の代替大会として16チームが参加。インカレでの最高成績はこれまでベスト8で、今回のベスト4が全国大会での最高成績となりました。長澤淑恵監督は「躍動感のあるいい試合をしてくれました。創部以来、初のベスト4ですが、悔しい3位です。目標は日本一です。もっと強くなってこの場所に戻ってきたいと思います」と語りました。

——プロ野球選手として14年、最大の思い出は何ですか。

「14年間で色々ありましたけれど、最大の思い出は充実した毎日です。毎日一生懸命野球に取り組んでましたし、良いこと悪いことがあっても逃げずに立ち向かって野球をやったことですね」

——長く現役を続けられた秘訣は何ですか。

「良い準備をして毎日野球をやること。気持ちを強く持ち我慢強くいることですね。気持ちの面が大きいのかなと思います。万全なコンディションで試合に臨めることはほぼないので、それに負けない気持ち、忍耐力を持ち続けてこられたことが、長く現役を続けられた要因かなと思います」

——渡辺選手の考える野球の最大の魅力は何ですか。

「個人の持っている能力・特徴で勝負ができることです」

——今季は2部で優勝しましたが、コロナ禍で変則日程になったため入れ替え戦はありませんでした。神宮大会で準優勝したこともある渡辺選手の時代と比べて何が足りないのでしょうか。

「今のチームを見ていないので僕たちの時代と比べることはできないですけど、やはり1部にいないとだめだと思います。当時東海大が強かったんですが、その東海大をどうやって倒そうとしか考えてなかったです。倒せば全国に出場できますし、上位に行けるんじゃないかと思っていました。2部で全勝優勝したことは素晴らしいんですけど、もっと高い目標をもってやってほしいですし、勝つためのレベルの高い練習をしてほしいですね」

——球場は今年、神宮球場仕様の全面人工芝になりました。強い「城西」復活のために後輩を指導したいお気持ちはありますか。

「環境が良くなっているのであれば、なおさら学校、地域の期待に応えないといけないという責任感が生まれると思います。後輩たちに指導、野球の話をしてみたいですね」

——後輩へメッセージをください。

「1部で勝って全国の強いチームと試合をしてもらいたいです。勝つことによって自信につながるとしています。上を目指して毎日の練習から頑張ってもらいたいですね。城西野球部は雑草軍団なので、エリート大学野球部に負けてたまるかという気持ちでやっていました。根性みせて欲しいですね。期待しています」

ゼミ登場

志田ゼミ 志田 崇 准教授

持続的成長社会に向けた環境経営の研究

「持続的成長社会に向けた環境経営の研究」——。経営学部の志田崇准教授のゼミのテーマです。利益を出しながらも、明るい未来のために持続的成長を成し遂げる優良企業を研究し、そうした企業・組織の活動を推進する人材に成長することを目指しています。

学んでいるのは3年生21人。前期はコロナ禍でオンラインによる環境経営事例研究を行う一方、坂戸市の環境ボランティア活動に参加して環境にやさしい石鹸作りなどを体験しました。後期は問題解決プロジェクトに取り組みました。6班に分かれ、AIを活用した社会課題の解決策の提案づくりです。11月11日の授業で発表会がありました。各班が取り組んだテーマは「AIを用いた自動選別ごみ箱」「AIで食品ロスを減らす」「ごみの分別をAIで簡単に」「海のごみをAIで減らそう」「電気の使用料とAI」「AI搭載のゴミ箱で町のゴミ問題を解決」と興味深いテーマが並びました。このうち、「AIで食品ロスを減らす」のグループは「冷蔵庫に内蔵したAIで食品の賞味・消費期限を管理す

ることによって、食品ロスを減らすことができる」と提案しました。

将来は起業したいというゼミ長の水戸部隆稔さんは「会社側が環境についてどんな取り組みをしているか知りたくて」と志田ゼミを選択した理由を説明。「将来は小売業に入って、ノウハウを得てから飲食業を経営したい。食品ロスの減少などゼミで学んだことを生かしていきたい」と語りました。志田准教授は「経営と環境活動を両立して豊かな社会を実現する、その基礎となる力を学んでほしい」と学生たちに期待を寄せています。



問題解決プロジェクトの発表風景。左端が志田准教授

柳澤ゼミ 柳澤 智美 准教授

「人が人を支える、これからの「共助」学ぶ

現代政策学部の柳澤智美准教授のゼミのテーマは「共助」です。子どもたち、障がいのある人、お年寄りの人たちと交流し、地域で共助を実践しています。

柳澤准教授が挙げるゼミの目的は四つ。コミュニケーション能力を円滑にし、表現力を豊かにする▷プレゼン能力を高めるとともに問題解決の方法を学ぶ▷公務員試験などの過去問を使用して問題解決の基礎知識を身につける▷実際の課題解決に取り組むことで政策学を学ぶ意義やその必要性を学ぶ——。

今年度は4年生18人と3年生15人が学んでいます。ゼミの大きな柱の一つが課外活動。坂戸市内での子ども食堂や東松山市内での障がい児童の居場所づくりなどを展開してきましたが、今年度はコロナ禍で中止に。このため12月から1月にかけてはオンラインによる小学生向けのパソコン教室で課外活動を再開する予定です。後期は対面とオンラインの併用で授業が行われ、11月20日の授業では、「地方創生」「フィッシング詐欺」をテーマに

した2人の学生による卒業研究の発表がありました。

柳澤准教授は「人が人を支えていかないと、これからの日本は成り立たないと思います。人を支えることで様々な所で問題を解決することの一部になってくれたら」と期待を寄せます。「ボランティアに興味があって柳澤ゼミを選んだ」というゼミ長の北村悠人さん(4年)は「みんな個性があって一見バラバラのようで、うまくはまって楽しく学んでいます。今後もボランティア活動を率先して行うとともに人とのつながりを大事にしていきたい」と抱負を語っています。



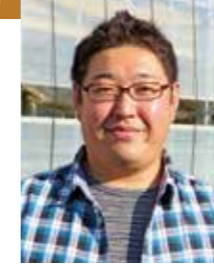
対面授業に出席した学生たち。左端が柳澤准教授

フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンと付属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、日高市農業会議所の堀口豊会長(38)と付属川越高校の硬式野球部にフォーカスしました。

新しく農業を始めたい人、大歓迎!

日高市農業会議所会長 堀口豊さん



日高市農業会議所は、日高市で農業を営んでいる若手農家のグループ。野菜や果樹、花きなどを手掛けるメンバーは現在29人。新規に日高市で就農した会員もいて、平均年齢は30代半ばの若さ。例年11月の「日高市民まつり」では野菜や花などで作った宝船を出展しているのはじめ、公民館の文化祭での直売、視察研修などのほか、奉仕活動として夏休みに市内通学路のカーブミラーの清掃も続けています。今年度はコロナ禍の影響でイベントはほとんど中止となりましたが、11月15日の市商工会青年部主催の「ドライブスルー祭り」に参加して花や野菜のセットを販売=写真②、市民から好評を得ました。

——30人近いメンバーで活動されている?

「メンバーは多品目生産による直売所出荷を行っている農家が多いです。みんな仲が良く、活動も楽しくやっています。これだけ多くの若手農家が集まっている所は珍しいようで、消防団に入っている会員も多く、そういう意味では地元愛が強いのかもかもしれませんね」

——会の利点は何ですか。

「農業という後継者不足のイメージが強いですが、日高市では若い農家も頑張っています。会員同士での情報交換から、より良い野菜づくりを学んだり、会員間で苗のやり取りを行い、野菜農家が果樹を新しく始めたりしたこともあります。身近で頑張っている仲間



を見て、自分も頑張ろうという刺激も受けます。このようなつながりを得られるのが、会の利点です」

——カーブミラーの清掃はいつから?

「親の世代からですから、20年以上続いています。カーブミラーって意外に汚れています。2学期前のある一日、6チームに分かれて市内通学路のカーブミラーを掃除します。合計で約100カ所に上ります」

——会として今後の抱負は?

「今後も若手農家の[つながり]の場として、楽しく活動していきたいです。コロナ禍が落ち着いて、イベントが出来るようになれば、お客さんとも触れ合うことができ、それがまた仕事のやる気にもつながる。そういう意味でも早く平穏な日常に戻るよう願っています。また、新しく農業を始めたいという人も大歓迎です。一緒に地域や農業を盛り上げていきましょう」

校是「報恩感謝」を実践し県大会ベスト8目指す

城西大学付属川越高校 硬式野球部



城西大学付属川越高校「硬式野球部」

城西川越学園の校是は「報恩感謝」。高等学校の硬式野球部も「報恩感謝」を実践できる人間の育成を目標に掲げています。新チームは2年生17人、1年生14人。土曜日を含めて練習は毎日で、日曜日は練習試合に当たっています。昨年から指導に当たっているOBの二川俊哉監督(保健体育教諭)はチームの特徴を「真面目、逆に言うところと大人しい」と語り、「1点を守って、ロースコアの勝負に持ち込んで強豪私立高に立ち向かっていくのが、城西大川越野球」と強調。エースで4番の森下旗志朗選手(2年)を中心にしたチームで、一塁手で主将の柳瀬潤選手(2年)がチームの精神的な支柱になっているといいます。

今年度はコロナ禍の影響で本格的な練習ができるようになったのは7月から。それでも15人の3年生は欠けることなく、8月の代替の県大会に出場しました。「甲子園につながる大会がなくなり、モチベーションの維持と精神的なケアは難しかったが、3年生は最後まで

でやりきってくれました」と語り、全体練習ができるようになった時のことを柳瀬主将も「やっと始まったと嬉しい気持ちになった」と振り返ります。

新チームは秋季県大会の西部地区予選で1回戦は勝利したものの、2回戦は強豪私立に敗れ、県大会には進めませんでした。柳瀬主将は「勉強と部活の両立を目指す『城西のプライド』を持って、来年は春の県大会に出場。夏はベスト8を目指したい」と力強く語っています。

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は、男子駅伝部の創部時のメンバーで岩手県北上市にランナー向けの鍼灸院を立ち上げた高橋裕太さん(37)にリモートでお話を伺いました。



世界を目指すアスリートを 応援したい

T-アスリート鍼灸院院長 高橋 裕太さん (2006年 経済学部卒)

——駅伝部の創部メンバーでいらした当時の雰囲気をお聞かせください。

「当時は陸上部から駅伝部になった先輩数名と勧誘1期生として入学した我々30人ほどでスタートしました。古いアパートでの生活でしたが、そこでの生活によって精神的にも鍛えられ、当時のメンバーにはいい思い出になっていると思います。創部当初のチームを一言でいうと『勢いと盛り上がり』でした。それは代々受け継がれているのではないのでしょうか」

——トレーナーに転じた経緯は?

「高校3年生の時に痛めた腰と股関節が治らなまま入学しました。元の状態に戻らず、人に頼っているだけでは解決できないと自分でも勉強していくうちに、トレーナーの道へ進みたいと思うようになりました。大学3年生の時、監督から勧められて学生トレーナーに。夢だった箱根駅伝を1年残して諦めるのは悩みましたが、チームに貢献できるほうを選びました」

——東海大学でトレーナーになった経緯は?

「榎部静二監督の古巣である『S&B食品』が運営する治療院に所属し、瀬古利彦さんのもとでトレーナーとして活動していました。東海大学から多くの選手が訪れていて、1年生の時からよく診ていた選手が4年生になり、彼が主将になった時に両角速監督に打診したことがきっかけでした。私の後にオレゴン大学出身のフィジカルトレーナーの方が4人目として入りました。オレゴン大学のやり方も入れてウォーミングアップのブラッシュアップを行いました。今ではほとんどのチームが動的ストレッチを取り入れています。7年前は青山学院大学くらいしかまだ取り入れているところはなかったと思います」

——2017年にUターンされ、訪問型機能訓練事業所を起された理由は?

「東京でトレーナーとして活動していたころ、父はパーキンソン病を患い車椅子生活を送っていました。年2回、岩手県の実家に帰るたびに悪化していくのを見て、リハビリの資格を持っているのに何もしてあげられていない自分に、後々、絶対後悔すると思いました。そこで自分が頑張れば、岩手を拠点にしてもトレーナー活動ができると思い、平日は岩手でリハビリを行い、週末は

東京と神奈川でトレーナー活動をして、また岩手に帰るという生活を2年間続けました。大変でしたが、携わった当時は予選会からだったチームが、箱根駅伝で初優勝する瞬間にも立ち会うことが出来ました。平日は脳梗塞後遺症などの麻痺がある人のリハビリを行い、週末はスポーツトレーナーという医療福祉とスポーツの両現場を掛け持つ人は数少ないです。両方の現場をみられる人材をもっと育成していきたいと思ひ会社を起こしました」

——T-アスリート鍼灸院が目指すものは何ですか。

「学生時代、榎部監督には『世界を目指せ』と事あるごとに言われてきたのが基盤となり、東海大学でもそのイズムを継承しました。帰郷してからも、その思いで世界を目指しているアスリートを応援していきたいと思っています」

——好きな言葉があったら教えてください。

「『人間万事塞翁が馬』です。学生のころは、一回の練習の出来不出来で一喜一憂しないで、数カ月の長い時間尺でものを考え、見るようにと言われていました。今でも人生というもっと長い時間尺で考えた時、スポットライトを浴びる時期もあれば、脚光を浴びない時期も当然あるわけで、脚光を浴びない時期の過ごし方、耐え方を大事にしたいと思います」

——後輩たちへのメッセージをお願いします。

「私は学生時代、ベンチャーキャピタルファンドについて勉強、研究していました。そのことを活かしてファンドを利用して資金調達することも出来ました。学生時代からやりたいことが決まってい、そのために勉強している人は少ないかもしれませんが、やりたいことが見つかった時、学生時代に勉強したことは必ず役に立つと思います。頑張ってください」

T-アスリート鍼灸院

ランナーを中心としたスポーツ選手のケガ、障害専門の鍼灸院。鍼灸やあん摩、マッサージによる療養のほか、痩身やリハビリ、パーソナルトレーニング、低酸素高地トレーニングにも対応。移動が困難な人のために訪問による施術も行う。
〒024-0072 岩手県北上市北鬼柳16地割13-9
☎ 0197-62-6242 / ✉ info@t-athlete.jp



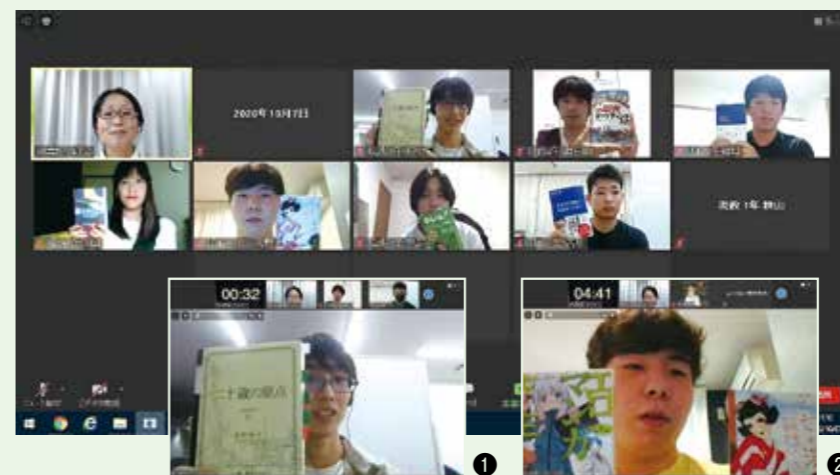
図書館だより

「ビブリオバトル2020 in 城西大学」を開催しました

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により「全国大学ビブリオバトル2020～京都決戦～予選会 城西大学」が中止となりました。代わって全国大会より小規模ながら「大学ビブリオバトル・オンライン大会2020」の開催が決定し、そのエントリー権をめぐるバトルとして、10月7日に「ビブリオバトル2020 in 城西大学」を実施しました=写真①。当館では初めてのオンライン大会でしたが、8人のバトラーが参加し、熱い発表を届けてくれたほか、

バトラーと視聴者とのディスカッションも例年以上に盛り上がりました。また、チャンプ本獲得の村中さんは11月28日の「大学ビブリオバトル・オンライン大会2020」に出場し、予選会でも見事チャンプ本を獲得しました。12月19日の準決勝が楽しみです。

▷現代政策学部2年・村中皓さん紹介『二十歳の原点』(チャンプ本)=写真①
▷現代政策学部1年・玉野銀人さん紹介『乙女の港』(準チャンプ本)=写真②



学生アドバイザーが「第22回 図書館総合展 ONLINE」に参加しました

11月1～30日(コア日:11月4～6日)に開催された第22回図書館総合展に今年も本学の図書館学生アドバイザーが参加しました。ポスターセッションでは2年連続で「優秀賞」を獲得しており、3年目となる今年のテーマは「放送局」です。学生アドバイザーの活動や本の魅力を多くの人に伝えたいという思いから、オンライン活動下で約半年をかけて作成したポスターは、仕掛けが随所にちりばめられ、隅々まで楽しんでもらえる力作となりました=写真③。また学生アドバイザーオリジナルキャラクターの

「ホニ君ズ」=写真④も「図書館キャラクターの環2020」に念願の初参加を果たしています。例年の順位を競う「キャラクターグランプリ」と違い図書館キャラクターのお披露目の場となった今年、「ホニ君ズ」の魅力を大いに楽しんでいただけたのではないのでしょうか。会期終了後も作品は以下のリンクから見ることができますので、ぜひチェックしてみてください。



<https://2020.libraryfair.jp/poster/2020/p091>

教員おすすめ図書の小冊子(2020年版)ができました

2020年版の教員おすすめ図書の小冊子ができました。教員が学生に読んでもらいたい本を集めたコーナー「教員おすすめ図書」にある1冊ずつに教員からの推薦コメントをもらっています。小冊子は最新版のほか、2016年版からは図書館HP=URL=で見ることができます。まずは1冊手に取って、図書を通じた教員との交流を楽しんでみてください。



<https://libopac.josai.ac.jp/search/recommend.htm>

「第22回 図書館総合展 ONLINEフォーラム」に本学の図書館員が登壇しました



11月4日の図書館総合展オンラインフォーラム「ソーシャル・ディスタンス時代の図書館×ゲーム」に「TOSHOKAN QUEST」=写真=を作成した当館図書館員が、「図書館とゲーム部」主催のフォーラム=URL①=に招かれて登壇(対談)しました。対談動画はYouTube=URL②=でも公開されていますので、図書館とゲームのコラボに興味のある方はぜひご覧ください。

① <https://2020.libraryfair.jp/forum/2020/f212>
② https://www.youtube.com/watch?v=HGEPNem_Ep0

Art

美術館通信

しばらく休館していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防・拡散防止対策を講じたうえで、12月7日より開館を再開し、展覧会を開催する運びとなりました。感染状況により、展覧会、イベントについて変更または中止の対応を取る可能性もあります。ホームページ等で随時ご案内しますが、ご理解頂きますようお願いいたします。

水田美術館の感染予防対策

水田美術館では、「受付時の飛沫防止シールド設置」「消毒液の設置」「スタッフのマスク着用及びこまめな手洗いと検温実施」「備品の消毒及び清掃の強化」を通して来館者の感染予防対策を徹底しています。



水田美術館
受付付近の様子



最新情報は水田美術館HP、Twitterでご確認ください



水田美術館
ホームページ QRコード



水田美術館
Twitter QRコード

今後の展覧会のお知らせ

展覧会Ⅰ 「IMABARI Color Show × JOSAI Color 2020」開催中



【会期】①2020年12月7日～12月18日
②2021年1月8日～2月10日

【場所】ギャラリー2
【企画/監修】本学経営学部 辻 智佐子教授

2018年度に開催しました「IMABARI Color Show」の第2弾となる今回の展覧会では、今治の染色技術で染められた生地を使った「1000色の声」を中心に色と声を表示します。開催中も「1000色の声」をはじめ、来館者の声を表示できる参加型の展示会となっています。会場でアートの一部を作成しませんか？



「1000色の声」



会場での「アート作成」も

展覧会Ⅱ 「鈴木遂峰書展」

【会期】2021年1月8日～2月10日
【場所】ギャラリー1
【ギャラリートーク】2021年1月23日、2月8日
14:00～14:40(予定)

教鞭を執る傍ら書道家としても活動されている本学経済学部 鈴木雅勝教授の屏風を含む書作品をご紹介します。余白の「白」と墨の「黒」が織り成す書の「美」の世界をお楽しみください。



屏風書展



ご来館のみなさまへ ご協力をお願い

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来館の際には「受付時の検温への協力」「マスク着用等の咳エチケット」「入口での手指消毒」「展示物やケースには触れない」「ソーシャルディスタンス」「会話は最小限で」をお願いしております。また、1グループ3名様までの事前予約制とさせていただきます。来館希望日前日の15:00までにご予約ください。(月曜日ご希望の場合は土曜日)
※12月27日(日)～2021年1月7日(木)は冬期休業中の為、受付が出来ませんのでご注意ください。

ご予約はこちらから！

◆お電話・FAX・メールでのご予約
[TEL] (049) 271-7327
[FAX] (049) 271-7342
[Mail] museum@josai.ac.jp

◆予約サービス「フォームズ」からのご予約

◆予約内容
① 来館日
② 来館人数
③ お名前(代表者)
④ ご連絡先(代表者)
⑤ 来館時間(9:30/10:30/11:30/12:30/13:30/14:30/15:30)



QRコード

エリア紹介

鶴ヶ島市

応援ありがとう！ 「つるゴン」が全国3位に

2011年に始まり、全国にご当地ブームを巻き起こした「ゆるキャラグランプリ」。今年、2020年の開催でファイナルを迎えました。鶴ヶ島のイメージキャラクター「つるゴン」=写真=は、全国16位となった2017年以来出場していませんでしたが、新型コロナウイルスで暗い気持ちになりがちな昨今、少しでも地域を元気にしたい、明るいニュースを届けたいとの想いから、3年ぶりに出場することになりました。

インターネット投票や岩手県での決選投票の結果、なんと全国で3位に入賞しました。応援していただいた皆さま、ありがとうございました。現在、つるゴンから感謝を込めて、「つる(ゴン)の恩返し」企画を実施しておりますので、詳細は下記HP=URL=をご覧ください。これからもつるゴンはつるゴらしく、ゆるくマイペースで頑張っていきますので、皆さまの応援をよろしくお願いします。

<http://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/dir005277.html>



毛呂山町

日本最古の生産ゆず 「桂木ゆず」

毛呂山町では奈良時代からゆずを栽培していたとされる言い伝えがあり、「新編武蔵風土記稿」によると、江戸時代には毛呂山のゆずは特産として認められていたことが分かります。このことから日本最古の生産地と言われています。昭和初期には付近の青物商の手によって「桂木ゆず」というブランドで東京市場に盛んに出荷されており、高値で取引される高級品でした。

「桂木ゆず」=写真=は、水はけがよく北風も吹かない滝ノ入地区の気候風土により実が大きく皮が厚く、香りが高いのが特徴です。1月中旬までは黄色に輝く身をつけたゆず山を歩くのもお勧め。山を歩くとゆずの香りがほんのり漂ってきます。また毛呂山町内の直売所では、ゆず巻きやゆず味噌など桂木ゆずを使った加工品を購入することができます。

お問い合わせは、毛呂山町産業振興課(☎049-295-2112 内線213、214)へご連絡ください。



東武線沿線情報

リアル宝探しイベント開催中 「比企能員の伝説の武器をさがせ！」

東武東上線では2021年2月28日まで、リアル宝探しイベント「比企能員の伝説の武器をさがせ! 隠された五つの武器」を開催しています。

鎌倉時代に比企地域で活躍した武将・比企能員の五つの宝が、この地域に隠されているとされています。まずは宝の地図を手に入れて謎を解明し、示された地で五つの宝探しに挑戦します。宝箱を三つ以上発見すると東武鉄道オリジナルグッズがプレゼントされます。さらに五つすべての宝箱を発見すると、東武鉄道オリジナル懐中時計や任天堂Switch、各自自治体のご当地商品セットなど豪華賞品が当たる抽選に応募ができます。

参加冊子は、東上線・越生線各駅(みなみ寄居・寄居駅を除く)と各役場にあり、イベント公式サイトからダウンロードも可能です。宝だけではなく、各地域の歴史や自然の良さも発見できる楽しいイベントとなっていますので、ぜひご家族や仲間と一緒に挑戦してみてください。

イベント公式サイト
<https://www.takarush.jp/>

※景品が終了した場合は他の景品に変更となる場合があります。

